

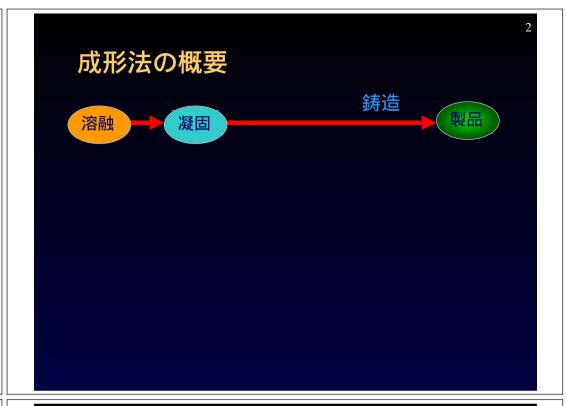
"材料に形を与える"

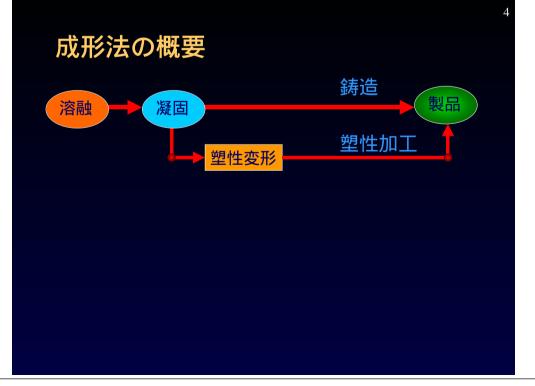
材料プロセス工学専攻 材料加工工学講座

湯川伸樹

yukawa@numse.nagoya-u.ac.jp



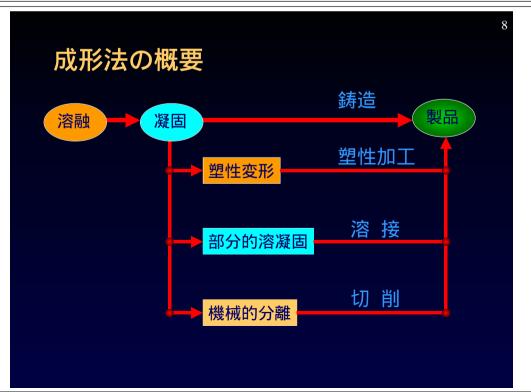




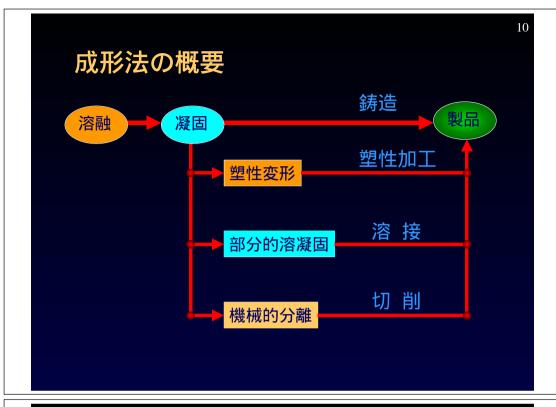












塑性加工の概念

一次塑性加工

板、棒、管、形材 (圧延、押出し、引抜き等)

_____二次塑性加工

ー次製品 → 機械部品 等 (鍛造、板成形、せん断等) 成形法の概要

塑性加工の特徴

1)後続仕上げ加工の省略が可能で、材料歩留まりが良好



■ 塑性加工の歩留まりはほぼ0 塑性加工 0% 切削加工 20 50%

12

成形法の概要

塑性加丁の特徴

- 1) 後続仕上げ加工の省略が可能で、材料歩留まりが良好
- 2) 型への転写加工であるため、生産速度大である 少種大量生産に適する



← この場合、加工速度は125倍 塑性加工 1sec/本 切削加工 125sec/本

成形法の概要

塑性加工の特徴

- 1) 後続仕上げ加工の省略が可能で、材料歩留まりが良好
- 2) 型への転写加工であるため、<mark>生産速度大</mark>である 少種大量生産に適する
- 3) 所要形状付与と同時に強靱化等の材質改善も可
- 4) 型の精度とそれへの転写性が製品精度を定める
- 5) 加工機械及び型製作に要する費用が高い

塑性加工の概念

工学的見地より見た塑性加工

- - 1) 材料の機械的性質
 - 2) 材料の幾何学的条件 製品の寸法・形状、素材の形状
 - 3) 工具の形状、構造、性質
 - 4) 加工機械、生産量、製品原価

実験、理論により合理的に決定

塑性加工の概念

工学的見地より見た塑性加工

- 具体的問題点
- 1) いかなる形状の素材に、いかなる形式によって外力を加えれば目的の変形が達せられるか?
- 2) 外力の大きさはどの程度必要か?
- 3) 材料は支障なく目的の変形を達することができるか? 破壊、くびれ、座屈、表面損傷などの危険はないか?
- 4) 製品の強度

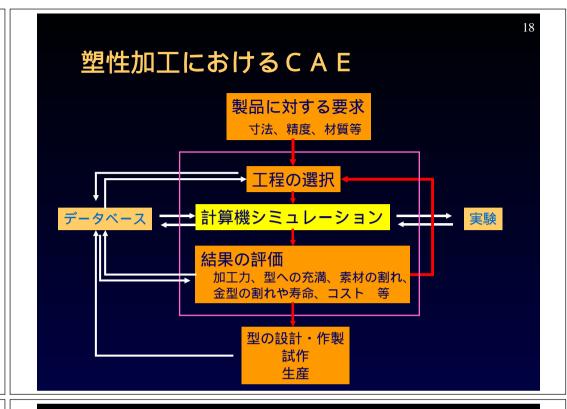
16

実験による試行錯誤

- -
- ・型作成の費用大
- ・時間がかかる
- ・得られるデータ

計算機によるシミュレーション

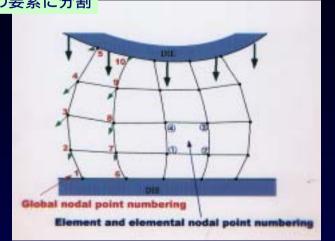
C A E: Computer Aided Engineering

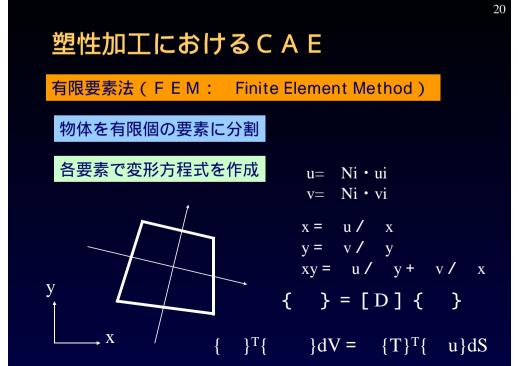


塑性加工におけるCAE

有限要素法(FEM: Finite Element Method)

物体を有限個の要素に分割





有限要素法(FEM: Finite Element Method)

物体を有限個の要素に分割

各要素で変形方程式を作成

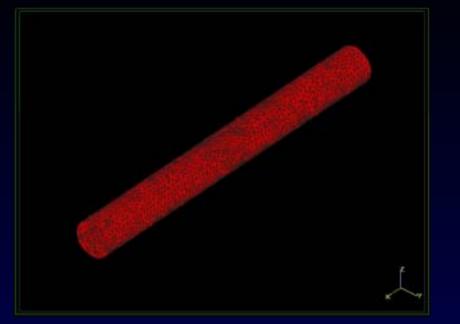
要素毎の方程式を重ね合わせて、全体の方程式を作成

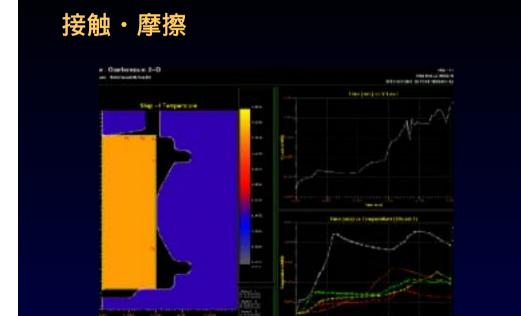
境界条件を導入し、方程式を解く

結果をグラフィック表示









割れ・破壊



多段押し出しにおける シェブロンクラック

Cockroft&Lathamの破壊条件式 要素除去

塑性加工におけるCAE

これからの課題

3次元形状の解析をより高精度に

モデリングから結果を得るまでをより高速に

材料モデルとの連携(材質予測、破壊予測等)

材料データ、摩擦データのデータベース化

ユーザインターフェース

等々・・・

